



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雑報
Citation	北大法学論集, 54(6), 303-305
Issue Date	2004-02-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/15271
Type	other
File Information	54(6)_p303-305.pdf



北海道大学法学会記事

○二〇〇三年九月一三日(土) 午前一〇時より

一四日(日) 午後六時まで

共通テーマ「生命倫理と法——国際・生命倫理ワークショップ
Pin札幌」

出席者三〇名

本研究会は、「人体組織の利用等をめぐる倫理的法的問題にかんする生命倫理基本法・提言」研究プロジェクト(略称「人倫研プロジェクト」)(研究代表・東海林 邦彦)(平成一四・一五年度 文部科学省・科学研究費補助金(基盤A2、課題番号・一四二〇二〇〇五))・主催、学術創生プロジェクト「生

命工学・生命倫理と法政策」(研究代表 東京大学・大学院法学政治学研究科・教授 樋口範雄)・共催のもとで、二日間にわたり、生殖補助技術、遺伝情報収集・開示、人体利用・操作等をめぐる「生命倫理と法」に関わる現代的諸問題につき、コモンロー諸国と近隣アジア、計五カ国からの専門研究者五人、すなわち、コモンロー諸国からは、カナダ・トロント大学の Bernard M. Dickens、イギリス・カーディフ大学の Derek Morgan、オウストラリア・メルボルン大学の Loane Stene G、各先生、またアジアからは、韓国・科学史学会会長の李成奎、台湾・銘傳大学の陳英鈴、の各先生を講師としてお招きし、また日本側からは、上記「人倫研プロジェクト」の関係者を中心として延べ二五名近い参加者のもとで、開催されたものである。

二日間の研究会でのかなりインテンシブな意見・情報交換は、それじたい、上記「生命倫理基本法」提言作業にとつてもさぶる具体的示唆に富む内容のものであったのみならず、そこで論議を通じて、おなじコモンロー諸国の内部でも(当然のことながら)問題への法的倫理的対処の方向・方法につき少なからぬ差異がみとめられること(この点とくに、USAとUKの動向をにらみながら「我が道」を模索するカナダ、またEUの

動向との関連において自己を定位せざるを得ないUKとの、距離などにつき興味深いものがあつた)、そしてなによりも、(大變小規模ながら)生命倫理をめぐる「東と西の対話」を通じて、

あらためて西洋諸国とアジアとの共通性・差異性の両面を認識させられたこと、なかならず(この領域においても)文字通り「一衣帯水」の地理的關係にあるアジア諸国との交流の必要性を痛感させられたこと、など、より大きな視点からの収穫といえるものも少なくなかつたことは、少なからぬ時間とエネルギーをその準備に投下せざる得なかつた主催者として、大いに喜びとするところである。

なお外国からの参加者が上記五カ国に限定されたことは、なによりもわれわれ自身の予算と人的情報の二つの資源的制約という、いささか外的偶然的な要因に起因するものであつて、それ以上のものではない。

…それはともあれ、コモンロー諸国からの先生方につきましましては、長旅を厭わず、またわれわれの準備不足にもかかわらず、終始誠実かつ暖かい協力をいただき、またアジアからの先生方につきましましては、直前の大變失礼な参加要請にもかかわらず快なフットワークとワークシヨップの趣旨に的確にフィットし

た対応をいただき、主催者としてあらためて、心からの感謝のメッセージを届けたいと思います。

上記東京大学の研究グループ・研究代表の樋口範雄先生には、上記UKとオウストラリアからの二先生の招待につきまして、その交渉の労のみならず財政的支援まで賜り、この場を借りて改めて、こちらから感謝もうしあげます。また京都大学・位田隆一先生には、ご多忙のなか、小生の要望に応えて、上記韓国と台湾からの参加者紹介の労をおとり頂いたことにつき、こちらから感謝申しあげます。

さらにまた、北海道大学総長・中村睦男先生には、ご多忙のなか(あたたかい支援の、心のこもつた)開会挨拶をたまわりまして、ありがとうございます。

なお、最後になりましたが、この二日間にわたる研究会全体をとおして、(医学専門用語等の困難を乗り越えて)通訳の労をおとりいただいた、岩田太(上智大学)、会沢恒(北海道大学)、森本直子(早稲田大学)の各先生には、その少なからざる労に心より感謝申しあげたいと思います。

——ささやかとはいえ本ワークシヨップの開催も、以上に名前を挙げさせていただいた諸先生方をはじめとして、多くの

方々の有形無形のご支援・ご協力のうえにはじめて可能であったこと、主催者としてもあらためて心に銘記したく思う次第である。

【追記】なお、本研究会での報告・発言内容全体の速記録（等）は近日中に主催者たる上記研究プロジェクトにより、小冊子としてまとめられ、関係者に配布の予定である。

（文責 東海林邦彦）